

第5回日韓情報セキュリティシンポジウム開催報告

2015年7月13日(月)に韓国ソウルにて「第5回日韓情報セキュリティシンポジウム」を韓国知識情報保安産業協会(略称KISIA)と共催で開催いたしました。このシンポジウムは2011年より日本と韓国とで交互に開催しており、本年が5回目の開催となります。前回は2014年11月に東京で開催し、2018年韓国冬季オリンピック、そして2020年東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れたセキュリティ連携活動を行うことでKISIAと合意をいたしました。それを受けての今回のシンポジウム開催となります。日本からは招聘講師を含む11名が参加し、全体で150名の参加者となりました。

まず始めに、両国の国家戦略について日本からは内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)藤田清太郎参事官と韓国からは未来創造科学部情報保護企画課のイカンヨン事務官にお話をいただきました。

藤田参事官からは、日本のサイバーセキュリティ基本法とサイバーセキュリティ戦略案についてお話いただきました。サイバーセキュリティ基本法は我が国の方針を定めたものであり、「サイバーセキュリティ」というカタカナ名称が法律用語に使われたことは大変珍しいことだそうです。新たな「サイバーセキュリティ戦略」では、情報セキュリティは経済発展の一分野と位置付け、国家安全保障も含めるようになったことが特徴だそうです。戦略を支える柱と

しての研究開発と人材育成についても触れられて本セッションは終了しました。

続いてイカンヨン事務官からは、韓国の国家背景、国家戦略の外観と情報共有の状況などについて説明があり、次にCIIP、ISMSや中小企業向けのSECURITY STAR施策などの説明があり、最後に韓国のサイバーセキュリティのチャンスと弱点が共存する国であるという特性から、日本と今後お互いに連携協調して発展していきたいとお言葉がありました。これからも日韓の協調の機会が多いので、緊密な協力関係を築いていきたいとの言葉で締めくくられました。

続いて、KISIA シムジョンヒョン会長、JNSA 田中英彦会長、韓国未来創造科学部情報保護政策官 チョンハンギョン局長のご挨拶がありました。

シムジョンヒョン会長からは、7月は情報保護の月であり本シンポジウムは国際協力のモデルとして位置付けられつつある、今後も日本と韓国のネットワーク作り結び付けたいのご挨拶がありました。次に日本の田中英彦会長からは、オリンピックに向けた経験の共有や両国の経済発展を目的に、両国の相互理解を深めることを期待したいのご挨拶がありました。そして韓国チョンハンギョン局長からは、両国のネットワーク共有が続くことを祈念するとの言葉がありました。



イベント開催の報告

ランチタイムをはさみ午後のセッションは両国のオリンピック委員会の方のご講演です。日本からは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会のテクノロジーサービス局局長である館剛司氏からお話いただきました。

館氏からは、2020年の大会時に想定されるリスクや何を準備する必要があるのか、何をどう守るのかについて、そして最後に大会のレガシー（遺産）についての考察をお話されました。

続いて韓国からは平昌冬期オリンピック大会組織委員会オサンジン局長がお話されました。まず、ピョンチャン冬期オリンピックの外観について説明があり、次に、ゲームネットワーク、アプリケーション、データセンター、ATOSの提案するCHP/CHSデータセンターの構成などについて、いかにセキュリティ対策を行うかについて説明がありました。個人情報保護の事前評価サイトの開発最大では50万の個人情報を扱うことになるため、様々な有識者たちがオリンピックCERTを構築してノウハウの構築やパターンの共有などを行っているそうです。少ない予算で効率的に最適なセキュリティ対策を構築することをめざしているとのことでした。

続いてのセッションはIoTをテーマに、日本からはJNSA 調査研究部会長でインターネットイニシアティブ社の加藤雅彦氏にご講演いただきました。

加藤氏からは日本のIoTの状況についての説明とJNSAのIoTセキュリティWGの取り組みについてお話いただきました。韓国からは、イグルーセキュリティ社のナムヒョンウ研究所長にご講演いただきました。身近となっているIoTであるが攻撃が多いことも報告されており、その対策の必要性についてお話されました。

続いては両国のパネルディスカッションです。座長は日本側はJNSA 副会長でKDDI社の中尾康二氏、韓国はスンチョンヒヤング大学のヨム教授、パネリストは日本側はJNSA 副会長で日本マイクロソフト社の高橋正和氏、JNSA 事務局長でディアイティ社

の下村正洋氏、韓国側はKISAのソンギョンホ団長とホンギョン KISIA 副会長、ユンドユシク KISIA 副会長です。

日本側からは今年度の新たな取り組みであるJNSA CERCの紹介などを行い、韓国側からは共同の市場調査や東南アジアへ向けた市場開拓の提案など、活発なディスカッションが行われました。



その後、日韓企業による企業紹介が行われ、最後に中尾氏とヨム氏により以下の合意事項が確認され、日韓シンポジウム2015は閉会となりました。

日韓シンポジウム2015合意事項

- ・ 2016年5月に日本で第6回日韓情報セキュリティシンポジウムを開催する、また、オリンピック/パラリンピックの成功のための情報交換を促進し、年内にワークショップを行う
- ・ 両国のサイバーセキュリティ協力の強化のため、多角的な視点での両国協力関係を構築する、そのための多角的な協力を実施する
- ・ 市場調査を含めた情報交換を推進する、特にIoTセキュリティの市場調査などの具体的なアクションアイテムは2015年内を目処に確定していく
- ・ ビジネスの機会提供を模索し東南アジアへのグローバル進出を目的とした相互協力を模索する